

# 採択プロジェクトの詳細について

(別紙)

## PROJECT01

1. テーマ	施設系データの集約と利活用
2. 事業者名	株式会社バカン(代表者)
3. プロジェクト名	TOKYOトイレマップ
4. 実施予定エリア	渋谷エリア
5. プロジェクト概要	<p>【目的】生活インフラであるトイレ、誰もがトイレに困らない世界の実現にむけ、自治体と企業、住民が作る、世界に通用するトイレ情報収集・提供のモデルケースを創出する。</p> <p>【実施概要】パブリックな施設(行政/民間)のトイレ設備情報をベースに、バリアフリートイレなど、混雑情報のニーズが高いものについては、センサー活用でリアルタイムの混雑情報を付加して発信。さらに利用ユーザー自身が、トイレ情報を更新したり、リアクションを発信できる仕組みを構築する。</p>


**SHIBUYA発 トイレで困らない世界を実現**

**TOKYOトイレマップ**

MAP型のトイレ情報サービス

- 自分の近くのトイレがわかる
- バリアフリートイレの空き状況がわかる
- トイレの評価がわかる
- 正しい設備情報を維持できる

WEB画面イメージ



**利用データ**

- トイレの設備データ
  - オープンデータ
  - 施設からの提供データ
- バリアフリートイレの混雑データ
  - センサーデータ
- ユーザーの投稿データ
  - 設備に関するコメント
  - リアクション
  - フリーコメント

自治体と企業、そして住民。みんなでトイレを、街をもっとよくしていく

## PROJECT02

1. テーマ	防災データの利活用
2. 事業者名	日本電気株式会社(代表者)
3. プロジェクト名	TDPFー都市OS間の災害時の施設データ連携
4. 実施予定エリア	東村山市
5. プロジェクト概要	<p>【目的】平常時の公共施設等の維持管理情報を、災害発生時の避難所開設に活用することにより、開設に要する時間の短縮や、開設情報の避難者への早期伝達、関連機関との迅速な連携を実現する。</p> <p>【実施概要】公共施設の維持管理用のセンシングデータを活用し、発災時に建物異常の自動検知や優先的点検等を行うことにより、避難所の開設・情報発信の効率化、迅速化を図る。また、TDPF と自治体のデータ利活用基盤(都市OS)との連携により、関係主体間での避難所開設情報等の共有を図る。</p>

効果検証：想定利用者からフィードバック

## PROJECT03

1. テーマ	防災データの利活用
2. 事業者名	株式会社ぐるなび(LIVE JAPAN 事務局)(代表者)
3. プロジェクト名	集客施設による災害時の多言語情報提供
4. 実施予定エリア	丸の内エリア
5. プロジェクト概要	<p>【目的】災害発災時に集客施設が発信する善意の支援情報等を、多言語化し、データ流通させることで、訪日外国人旅行者の安全・安心確保や民間ビジネスの活性化、都民のQOL向上に寄与する。</p> <p>【実施概要】訪日外国人向け観光情報サービス「LIVE JAPAN PERFECT GUIDE(LIVE JAPAN)」を活用し、発災時に集客施設が発信する「支援情報」を収集し、多国語で提供する。また、東京都が提供する避難場所・一時滞在施設のオープンデータを収集し、LIVE JAPAN内コンテンツの「便利MAP」で表示する。</p>

TDPF (オープンデータ)